

はじめに

九州経済産業局は、平成19年度から21年度の事業として「九州IT経営応援隊」の活動を行ってきました。3年間の活動の中で、九州の中小企業がIT導入を図る場合に浮かび上がってくる課題には、共通点があることがはっきりしてきました。ITに対するある種のアレルギーが導入を難しくしていたり、パソコンはあるが入力に時間がかかり、役に立たない等の「IT経営の入り口でつまづいている」企業が多いという事実です。

一方で、「九州IT経営応援隊」活動の中で、非常にうまくITを利活用して成果を上げている企業にもたくさん出会うことができました。このような企業にあっても、最初からうまくITを使いこなしていたわけではなく、取り組む前のITに対するアレルギーやつまづき、失敗は同じであったのです。自社の組織や仕事の中にITをうまく融合させ、「ITを使いこなす」まで様々な過程を踏みながらIT経営を実践されています。九州経済産業局ではIT経営を実践している企業の中でも、特に模範となる企業を「九州IT経営力大賞」で表彰し、広く企業の皆様方に周知を図っています。

本書は、IT経営を実践している企業の事例を紹介することでIT経営を身近に感じていただき、中小企業がITを導入する場合に必要なポイントやカンどころに気づいていただくきっかけづくりを目的にしています。大きく分けて、「農商工連携分野」「製造業分野」「サービス分野」の事例を取り上げています。事例研究による「いいとこどり」をしていただきたいと思います。

IT経営というとむずかしく聞こえますが、九州における事例を知ることでIT経営を身近に感じていただき、他企業の事例を「お手本や参考」にして、自社へのIT導入の一步を踏み出していきたいと思います。

まずは、「気づくこと」・・・から始まります。

他社の事例を読むことで、視点が変わることにより「課題が見えてくる」ことにもつながります。IT経営は、その気づきがすべての出発点となるのです。

